

Iwatani

2020年3月期 中間決算説明会

2019年11月18日

岩谷産業株式会社

- **2020年3月期 中間決算概況**
- **2020年3月期 通期業績予想**
- **事業トピックについて**

2020年3月期 中間決算概況

減収の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2020年 3月期 中間実績	2019年 3月期 中間実績	前年差 (増減額)	2020年 3月期 中間予想
売上高	3,231	3,340	△109	3,405
売上 総利益	801	805	△4	-
営業利益	83	103	△20	102
営業外損益	15	14	+1	13
経常利益	98	117	△18	115
親会社株主に 帰属する 当期純利益	62	74	△12	71

売上高増減

19年3月期
中間実績

20年3月期
中間実績

△109
(△3.3%)

総合エネルギー +16
産業ガス・機械 △100
マテリアル +1
自然産業 +1
その他 +3

3,340

3,231

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

3

売上高は、LPガス輸入価格や資源価格が低位に推移したことで、前期に比べ109億円減収の3231億円となりました。この内、総合エネルギー事業で100億円のマイナスとなっておりますが、主にLPガス輸入価格の下落によるものです。

減益の要因分析

Iwatani

(単位：億円)

	2020年 3月期 中間実績	2019年 3月期 中間実績	前年差 (増減額)	2020年 3月期 中間予想	
売上高	3,231	3,340	△109	3,405	
売上 総利益	801	805	△4	-	
営業利益	83	103	△20	102	
営業外損益	15	14	+1	13	
経常利益	98	117	△18	115	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	62	74	△12	71	

営業利益増減

総合エネルギー: △14
産業ガス・機械: +3
マテリアル: +0.4
自然産業: △4
その他: △5

19年3月期 中間実績: 103
20年3月期 中間実績: 83
△20 (△19.6%)

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

4

売上総利益は、LPガス輸入価格が下落した影響により、マイナスの市況要因が前期比で23億円発生し、総合エネルギー事業が減益となったものの、産業ガス・機械事業や自然産業事業は増益となり、前期比4億円減益の801億円となりました。

営業利益は、人件費や研究開発費などの販管費が15億円増加し、前期比20億円減益の83億円となりました。

営業外損益は、支払利息の減少や受取配当金の増加などもあり、前期比1億円の収益改善となり、

経常利益は、前期比18億円減益の98億円となりました。

また、当期純利益は、前期比12億円減益の62億円となりました。

LPガス輸入価格の変動による増減益効果（イメージ） **Iwatani**

- 前提** ①卸売価格はLPガス輸入価格に連動 ②輸入～販売の期間は約3ヶ月

卸売価格 $\propto$ LPガス輸入価格
(中東玉(CP)と米国玉(MB)で構成)



LPガス輸入
価格が変動

短期的に業績に影響が生じる（市況要因の発生）

（LPガス輸入価格が元の水準に戻れば影響はゼロ）※



※在庫量・販売時期・販売数量等によって実際の業績への影響は変動します

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

5

当社はLPガスを中東と米国から輸入しており、中東からの輸入価格を「コントラクト プライス」、略してCP(シーピー)と呼び、米国からの輸入価格を「モントベルビュー」、略してMB(エムビー)と呼んでおり、これらの価格は毎月変動いたします。

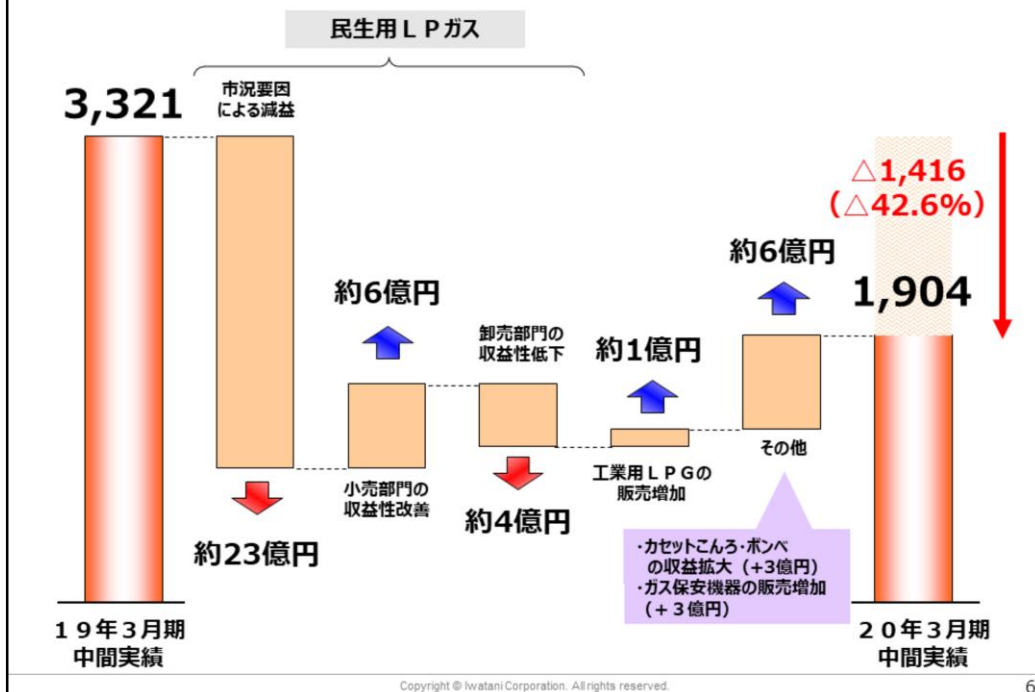
当社は、輸入価格の変動を平準化するため、多くの卸売先との間で、販売価格をCPと連動するよう取り決めていましたが、2017年10月からCPとMBに連動する価格体系に変更しています。

一方、当社では在庫評価について「先入れ先出し法」を採用していますが、LPガスの輸入から販売まで時間がかかるため、販売する際には、約3ヶ月前の在庫を販売することになります。

この結果、LPガス輸入価格の上昇時には安い原価の在庫を高く売ることになる一方、下落時には高い原価の在庫を安く売ることとなります。これらの影響を「市況要因」と呼んでおります。

総合エネルギー事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)

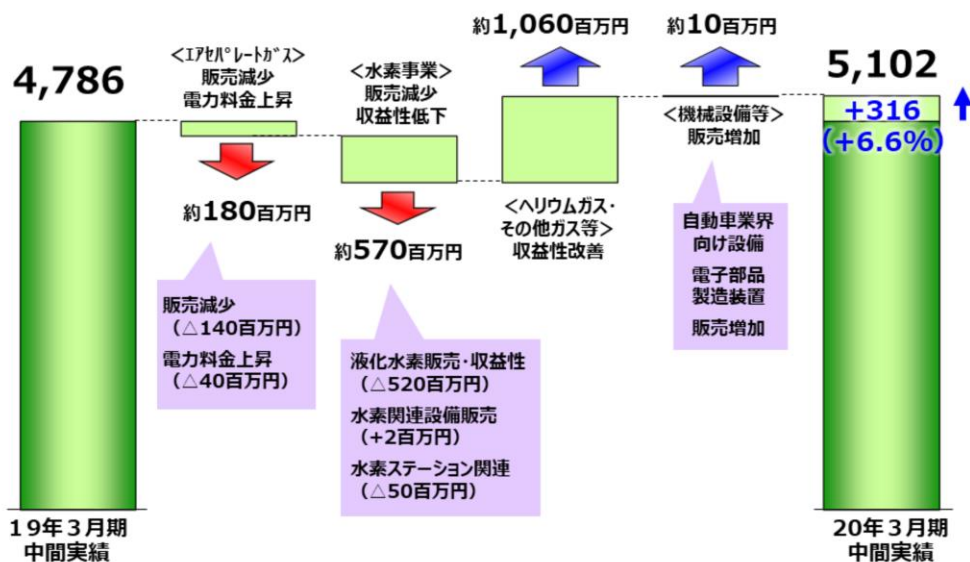


総合エネルギー事業は、LPガスの市況要因により、前期比で23億円の減益要因が発生いたしました。小売部門については、LPガス輸入価格が下落したことで、収益性が改善しましたが、卸売部門については、物流費や配送費の上昇などにより減益となりました。カセットこんろ・ボンベやガス保安機器の販売については、堅調に推移しました。

この結果、当事業分野の売上高は6.7%減収の1396億円、営業利益は42.6%減益の19億円となりました。なお、9月末時点のLPガスの直売顧客数は、99万戸となっております。

産業ガス・機械事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

7

産業ガス・機械事業は、エアセパレートガスについては、電子部品や光ファイバー業界が減速した影響を受け、販売数量が減少したことや、電力料金の上昇による製造コスト増により、減益となりました。

また、水素事業についても、液化水素の販売が減少したことや、水素ステーションの運営費が増加したことにより、減益となりました。

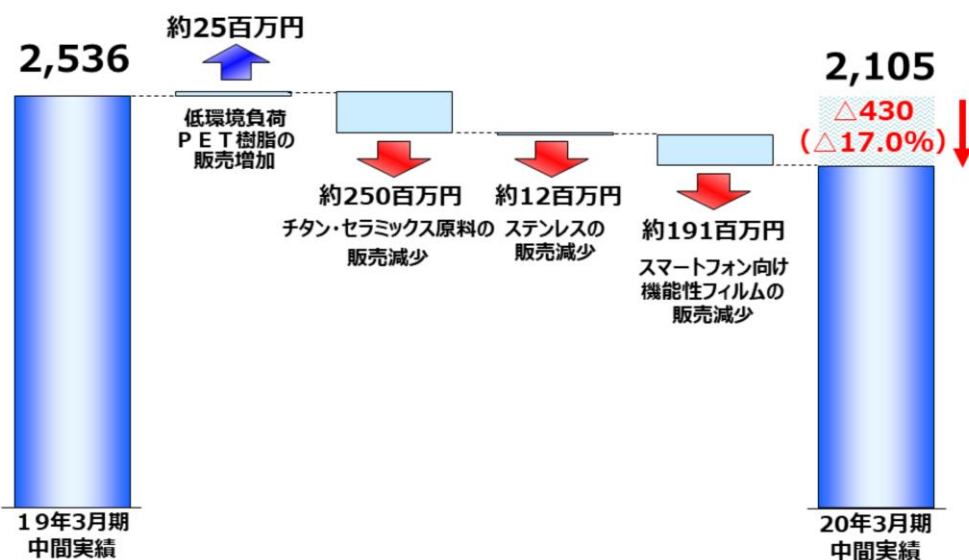
一方、世界的な需給のひっ迫により、ヘリウムの市況が上昇したことに加え、炭酸ガスなどの収益性が改善し、増益となりました。

また、自動車業界向け設備や電子部品製造装置などの機械設備の販売が伸長しました。

この結果、当事業分野の売上高は1.8%増収の925億円、営業利益は6.6%増益の51億円となりました。

マテリアル事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

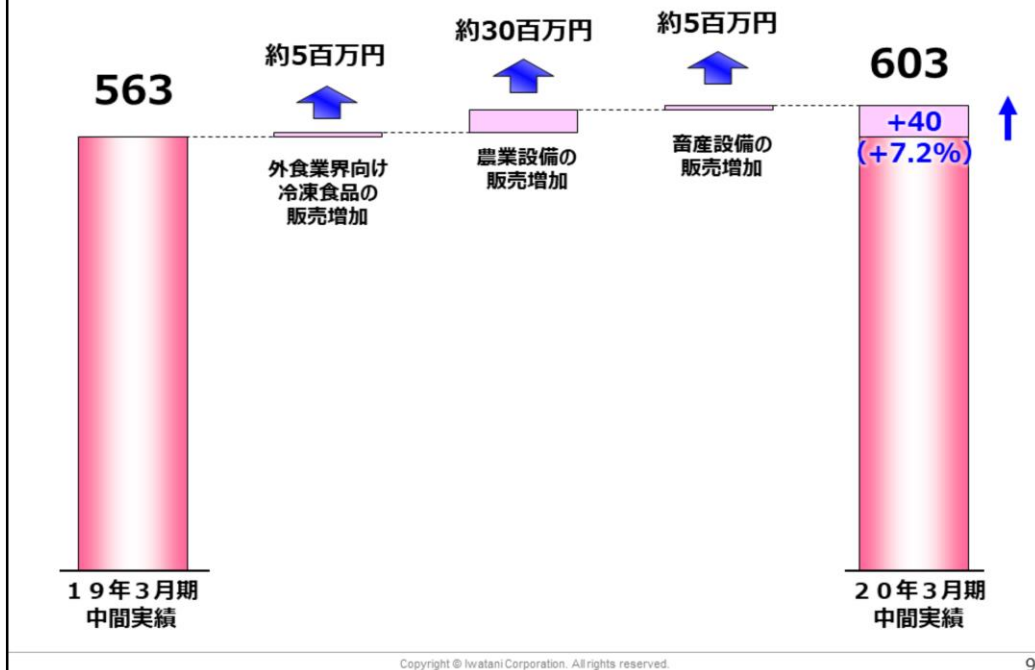
8

マテリアル事業は、大手飲料メーカー向けを中心に低環境負荷のPET樹脂の販売が増加いたしました。一方、チタンやセラミックス原料の販売が低調に推移したことに加えて、スマートフォン向けの機能性フィルムの販売が減少しました。

この結果、当事業分野の売上高は3.9%減収の743億円、営業利益は17%減益の21億円となりました。

自然産業事業 営業利益増減分析

Iwatani
(単位：百万円)



自然産業事業は、外食業界向け冷凍食品の販売が伸長しました。
また、農業設備や畜産設備の販売も堅調に推移しました。

この結果、当事業分野の売上高は1.4%増収の136億円、
営業利益は7.2%増益の6億円となりました。

貸借対照表（連結）

Iwatani
(単位：億円)

	2019年 9月末	2018年 9月末	前年差 増減額	主な増減理由
流動資産	1,972	1,897	+75	
有形固定資産	1,693	1,621	+71	水素ステーションやヘリウムコンテナへの投資
無形固定資産	172	172	+0	
投資その他の資産	789	849	△60	保有株式の時価下落による投資有価証券の減少
固定資産	2,655	2,643	+11	
総資産	4,628	4,540	+87	
流動負債	1,669	1,702	△32	LPGガス輸入価格が前期と比べ低かったことによる仕入債務の減少
固定負債	1,191	1,117	+74	長期借入金の増加
負債	2,861	2,819	+41	有利子負債 1,480億円 有利子負債依存度 32.0%
自己資本	1,682	1,605	+77	(自己資本比率 36.3%)
非支配株主持分	84	116	△31	
純資産	1,766	1,721	+45	
負債・純資産	4,628	4,540	+87	

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

10

9月末の総資産は、前年同期比87億円増加の4628億円となり、自己資本は、前年同期比77億円増加の1682億円となりました。その結果自己資本比率は1ポイント改善し、36.3%となりました。

一方、有利子負債は、設備投資や運転資金の増加により、前年同期比107億円増加の1480億円となり、有利子負債依存度は32.0%となりました。

キャッシュ・フロー計算書

Iwatani

(単位：億円)

	2020年3月期 中間実績	2019年3月期 中間実績	前年差 (増減額)
営業キャッシュ・フロー	42	77	△35
投資キャッシュ・フロー	△168	△102	△65
フリー・キャッシュ・フロー	△125	△24	△101
財務キャッシュ・フロー	180	22	+158
換算差額等 ※1	△3	0	△4
現預金等の増減額 ※2	51	△1	+53
現預金等の期首残高	195	177	+17
現預金等の期末残高	246	175	+70

※1 「換算差額」「連結の範囲の変更に伴う増減額」「非連結子会社との合併に伴う増加額」の合計を表示しております。

※2 「現預金等の期首残高」と「現預金等の期末残高」の差額を表示しております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

11

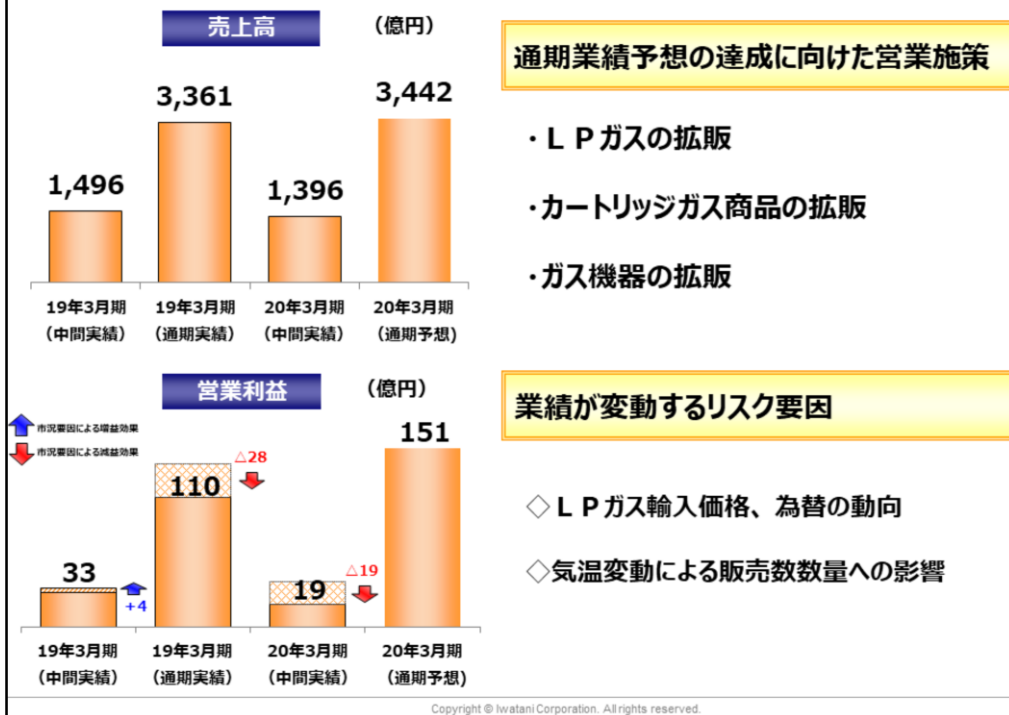
営業キャッシュフローは、運転資金が増加したことや、純利益が減少したことなどにより、前期比で35億円減少し、42億円の収入、投資キャッシュフローは、LPガス、ヘリウムガス、水素ステーションなどへの設備投資があり、168億円の支出、結果、フリーキャッシュフローは▲125億円となりました。

財務キャッシュフローについては、借入金の増加などにより180億円の収入となり、その結果、現預金は51億円増加いたしました。

2020年3月期 通期業績予想

総合エネルギー事業の見通し

Iwatani



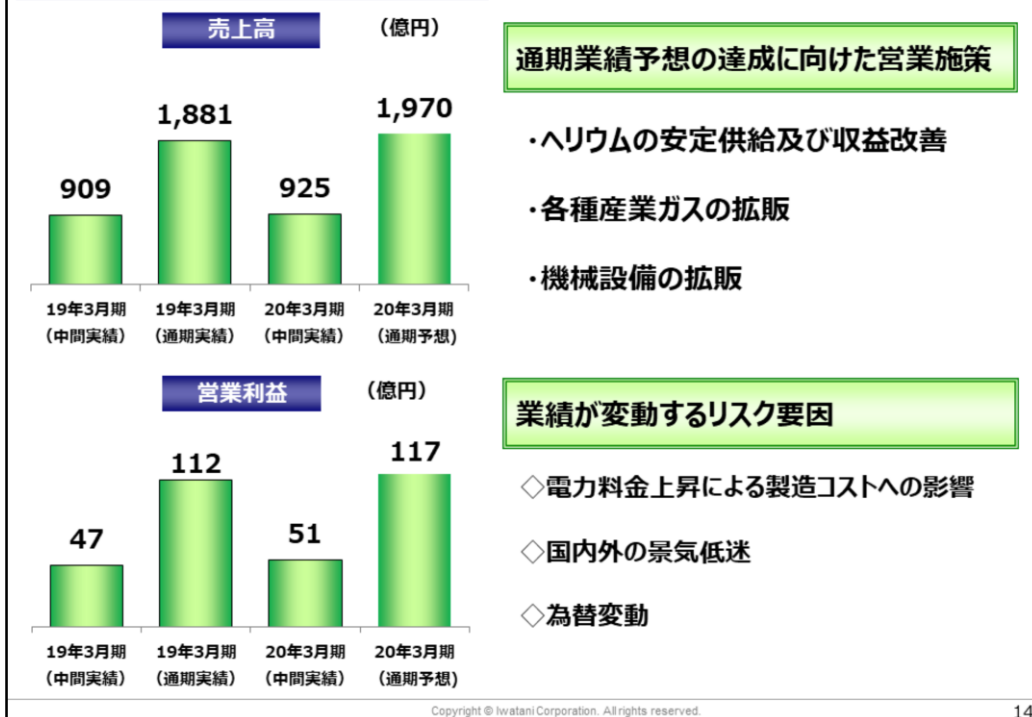
総合エネルギー事業については、
売上高は3442億円、営業利益は151億円を予想しております。

小売部門では、引き続きM&Aの推進により、
PLAN20の目標である100万戸の早期達成に向け、
直売顧客数の拡大に努めてまいります。

また、卸売部門では、物流費や配送費上昇の転嫁を進め、
収益性の改善に取り組むとともに、新規顧客への拡販を進めます。

今年、発売50周年となったカセットこんろ・ボンベについては、
新商品の開発やキャンペーンの実施により、新規顧客の開拓に努めてまいります。
海外についても、さらなる販売拡大を目指して、
中国や東南アジア等での販売体制の強化を図ってまいります。

また、LPガス発電機やガス保安機器といったガス機器の拡販により、
収益の拡大を図ります。



産業ガス・機械事業については、
売上高は1,970億円、営業利益は117億円を予想しております。

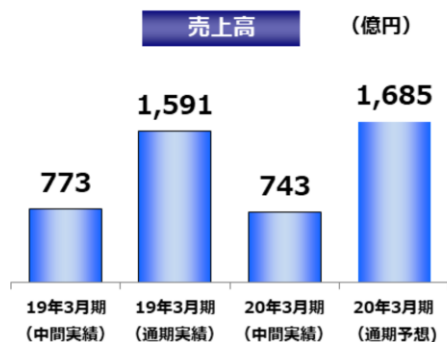
当期は、エアセパレートガスや液化水素については、
電子部品や光ファイバー業界が低調に推移したことで苦戦をしましたが、
下期はロケット向けの液化水素の回復が見込まれており、
加えて再生医療といった新規分野でのガス需要を取り込み、
事業拡大に努めてまいります。

ヘリウムについては、
依然として世界的に需給環境は厳しい状況が続く見込みです。
米国・カタールからの調達ソースを持つ当社としては、
国内外の顧客への安定供給を確保し、更なるシェアの拡大に努めてまいります。

機械設備については、5G関連や車載用電子部品向けの
投資意欲が高まってきており、
引き続き産業ガスの顧客基盤を活かして、販売拡大に努めます。

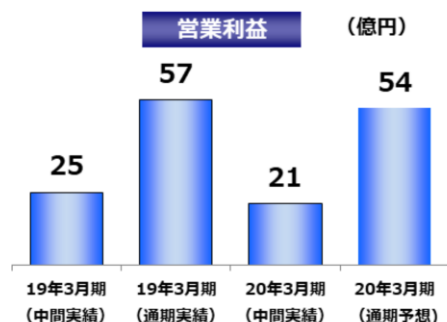
マテリアル事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けた営業施策

- ・低環境負荷PET樹脂原料の拡販
- ・バイオマス事業の拡大
- ・二次電池材料の拡販



業績が変動するリスク要因

- ◇顧客企業の工場稼働率の低下
- ◇資源市況の変動
- ◇為替変動

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

15

マテリアル事業については、
売上高は1,685億円、営業利益は54億円を予想しております。

注力している成長事業については、
昨年度、バイオマス事業、低環境負荷PET樹脂原料、
二次電池材料を合計すると売上高で200億円を超える規模となりました。

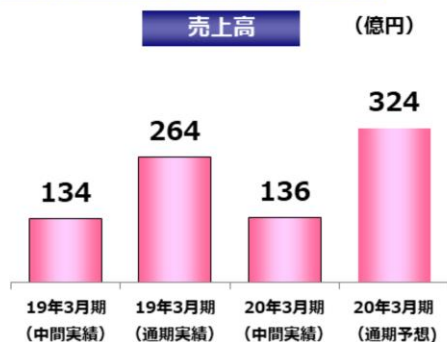
個別にみると、二次電池材料が市況下落の影響を受け、
売上高は減少しましたが、販売数量は着実に増加しております。

バイオマス事業では、
長期契約の開始にともない販売数量が増加しており、
低環境負荷のPET樹脂原料も、環境意識の高まりの影響を受け、
新規用途での引合いも増えています。

PLAN20の目標である事業規模300億円に向けて、
着実に取り組んでまいります。

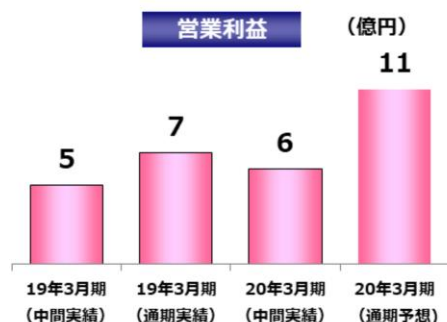
自然産業事業の見通し

Iwatani



通期業績予想の達成に向けた営業施策

- ・冷凍食品の拡販
- ・農業設備の拡販
- ・種豚の拡販



業績が変動するリスク要因

- ◇為替変動
- ◇原材料価格変動
- ◇天候不順

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

16

自然産業事業については、
売上高は324億円、営業利益は11億円を予想しております。

食品部門では、好調な外食業界向けに、
冷凍食品の拡販や消費者ニーズに合致した商品開発を進めてまいります。

また、農業・畜産部門では、
引き続き農業設備や種豚の拡販に取り組んでまいります。

2020年3月期 通期業績予想

Iwatani
(単位：億円)

	2020年3月期 業績予想	2019年3月期 実績	前年差 (増減額)	前年比 (%)
売上高	7,473	7,150	+322	+4.5%
総合エネルギー事業	3,442	3,361	+80	+2.4%
産業ガス・機械事業	1,970	1,881	+88	+4.7%
マテリアル事業	1,685	1,591	+93	+5.9%
自然産業事業	324	264	+59	+22.5%
その他	52	52	+0	△1.0%
営業利益	305	264	+40	+15.3%
総合エネルギー事業	151	110	+40	+36.5%
産業ガス・機械事業	117	112	+4	+3.8%
マテリアル事業	54	57	△3	△5.9%
自然産業事業	11	7	+3	+38.5%
その他・調整額	△28	△24	△3	—
経常利益	330	299	+30	+10.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	205	192	+12	+6.7%

想定レート 為替 110円/\$ LPガス輸入価格 490\$/ト

※2020年3月期よりセグメント区分を一変更しており、それに伴い2019年3月期実績も組み替えております。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

17

全体での2020年3月期の連結業績予想は、

売上高は、前期比 4.5%増収の 7,473億円
 営業利益は、前期比 15.3%増益の 305億円
 経常利益は、前期比 10.2%増益の 330億円
 当期純利益は、前期比 6.7%増益の 205億円

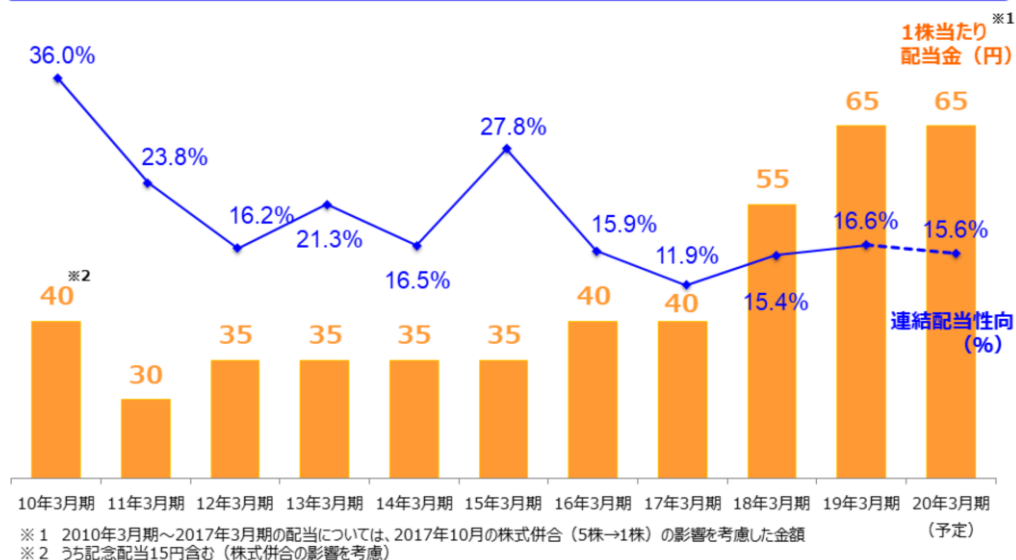
と、期初公表の業績予想を据え置き、過去最高益、
 ならびに一年前倒しでのPLAN20の達成を目指します。

株主還元について（連結）

Iwatani

配当方針

- ・継続的かつ安定的な配当の実施が基本方針
- ・業績や経営環境を勘案しつつ適正な利益還元を実施



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

18

2019年度の配当については、
 期初に公表いたしました通り1株あたり65円を予定しております。
 当社は継続的かつ安定的な配当を基本方針としています。
 引き続き、安定的な配当に努めてまいります。

事業トピックについて

被災地での復旧活動と防災設備の整備推進



登録隊員人数 / 全国3,600名

Marui Gas 災害救援隊



LPガス非常用発電機とLPガス災害バルク



GHP

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

20

当社は、LPガス有資格者約3600名の隊員からなる、全国組織「マルキガス災害救援隊」を設置しており、被災地でのLPガス供給体制の速やかな復旧やガス機器の安全点検などを行っています。昨年の西日本豪雨や、今年の台風19号においても、被災地へ出動し、復旧活動を行っております。

合わせて「サウジアラムコー岩谷産業 緊急災害時LPガス支援基金」も活用し、カセットこんろ・ボンベ、富士の湧水ペットボトル、D-パックを被災自治体向けに無償提供しています。

また、大規模な自然災害を受け、国も医療施設や老人ホーム、公的な避難所などでの防災設備の整備を推進しており、現在全国でLPガスの非常用発電機やGHPの導入が進んでいます。

引き続き災害に強い「分散型」のエネルギーであるLPガスの特徴を活かした活動に取り組んでまいります。

ヘリウムの安定供給に向けた取り組みについて

Iwatani

国内最大級のヘリウムセンターを建設 高効率のヘリウム回収設備の利用によるロス低減



東京ヘリウムセンター（新設）



ヘリウムの充填容器（デューワー）



大阪ヘリウムセンター（既存）



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

21

産業ガス事業については、世界的に需給がひっ迫するヘリウムに関して、首都圏に国内最大級のヘリウムセンターを建設し、4月より出荷を開始しました。

ヘリウムは医療用のMRIや半導体、
ならびにリニアモーターカーといった先端産業には欠かせないガスです。
今回新設した東京ヘリウムセンターと大阪ヘリウムセンターでは、
高効率のヘリウム回収設備を設置し、
希少資源であるヘリウムをロスなく安定供給出来る体制を構築しております。

当社は、米国産ヘリウムに加え、
アジア企業で唯一カタール産ヘリウムの直接購入権を有した、
世界で8%のシェアを持つヘリウムメジャーであり、
今後も日本をはじめ中国・東南アジアでの販売強化に努めてまいります。

水素エネルギー社会に向けた取り組みについて

Iwatani

水素ステーションの整備



水素閣僚会議の様子



イワタニ水素ステーション 東京有明

水素閣僚会議
今後10年間の目標値（世界）

燃料電池システム1,000万台

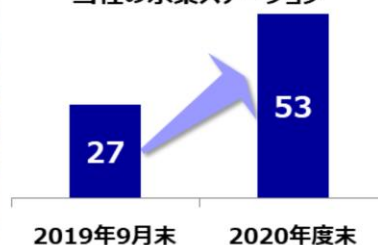
水素ステーション10,000カ所

水素基本戦略での目標値（国内）

水素ステーション900カ所（2030年）

FCバス100台（2020年）

当社の水素ステーション



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

22

水素事業については、
9月25日に東京で「水素閣僚会議2019」が開催され、
今後10年の間に「世界で燃料電池システム1000万台、
水素ステーション10000カ所を整備する」という目標が発表されました。
日本では、2030年に900カ所の水素ステーションを整備するという目標が
掲げられています。

当社の水素ステーション事業については、
国内において、今年度4カ所の水素ステーションを開所し、
現時点で27カ所を運営しています。
2020年度中には、53カ所まで増加させる予定で、
四大都市圏を中心に、点から線へと繋げていくように整備を進めてまいります。

また、東京都では、
2020年までにFCバスを100台以上導入する予定となっております。
当社においても、FCバスに水素供給が出来る有明のステーションに加え、
葛西も開所し、FCバスへの供給体制を強化してまいります。

米国での水素事業拡大



Iwatani West Sacramento H2 Fueling



Iwatani San Ramon H2 Fueling



Iwatani Mountain View H2 Fueling



Iwatani San Juan Capistrano H2 Fueling

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

23

海外においては、
2019年に米国カリフォルニア州の水素ステーション4か所を買収し、
米国における水素事業も着手しました。

カリフォルニア州では、日本を超える7000台以上のFCVが普及しており、
当社が運営する水素ステーション4か所では、
運営費ベースで、黒字化の目途がついております。

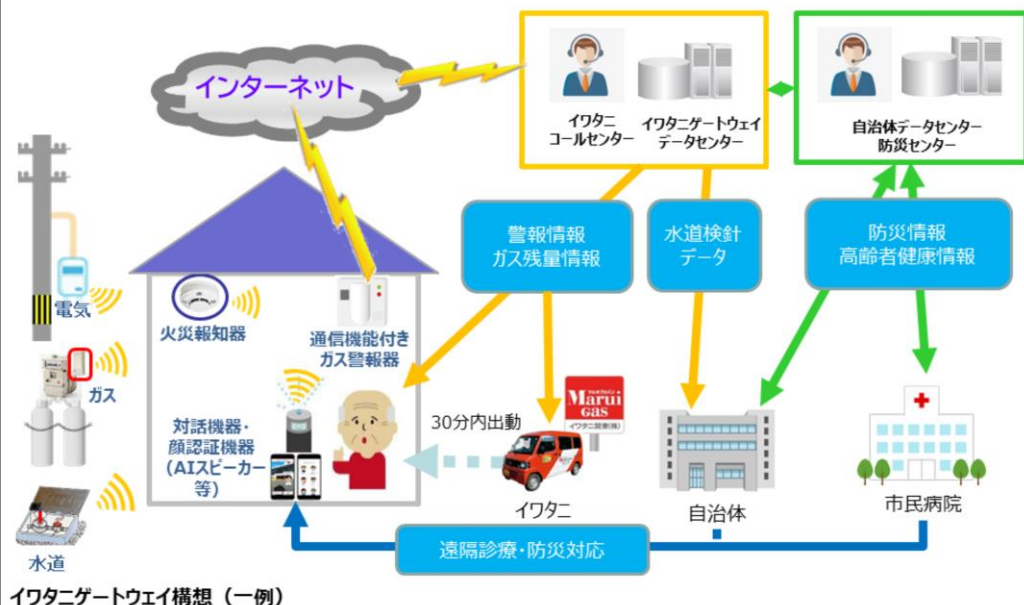
また、カリフォルニア州では、
大型物流トラックや港湾車両のFC化が計画されており、
大きな需要が見込まれております。

今後、大型車両に対応可能な大規模ステーションを含めて、
更なるステーションの増加を図るとともに、
北米での水素製造拠点の設立も検討してまいります。

イワタニゲートウェイへの取り組みについて

Iwatani

通信機能の実証と自治体との連携



Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.

24

総合エネルギー事業で、
昨年度から取り組みを進めているイワタニゲートウェイについては、
現在、岩谷グループのLPガス供給エリアにて、
通信機能付きガス警報器によるガスメータとの通信、
データ収集の実証試験を行っております。

ガス警報器を設置することで、
LPガスエリアでの通信インフラを整備することが可能となることから、
各地方自治体とは、これらの通信網を利用した防災面や
住民サービス面での活用も検討しております。

今後、イワタニゲートウェイを軸として、
更なるLPガス事業の拡大に努めてまいります。

Iwatani

お問合せ先

岩谷産業株式会社 経営企画部 IR担当

TEL:06-7637-3470

FAX:06-7637-3333

Webサイト:<http://www.iwatani.co.jp>

将来にわたる部分につきましては、予想に基づくものであり、確約や保証を与えるものではありません。当然のことながら、予想と違う結果と成ることがあることを十分にご認識の上ご活用ください。

Copyright © Iwatani Corporation. All rights reserved.